

全国の自治体における流域活性化に関する研究

A Study On Regional Basin Revitalization by Local Governments Throughout Japan

まちづくり・防災グループ 研究員 佐治 史
 技術参与 土屋 信行
 まちづくり・防災グループ グループ長 阿部 徹
 まちづくり・防災グループ 次長 竹内 秀二

1. はじめにー研究の目的

本研究は、全国各地の自治体が主体となって実施している流域活性化に関する取組みを対象に、活動の経緯、目的、内容、発展性を調査・分析し、他の自治体の参考となる仕組みの検討を目的とする。

2. 研究の方法

本研究では、自治体による流域活性化の代表的な事例として「全国川サミット」（以下「川サミット」という）を取り上げ、過去の開催報告資料に加え、平成30年度開催の「第27回全国川サミット in 三次」（主催：広島県三次市）の実行委員会並びに川サミットへの出席、参加自治体への事後アンケート、次期開催地の宮崎県宮崎市への引継ぎ資料を基に、運営体制や資金調達、意見交換等の方法を分析し、活動の継続や流域活性化の促進につながる仕組みを検討した。

3. 全国川サミットとは

全国川サミットは、当初は一級河川と同じ名称の自治体同士の交流を通して、川の環境、流域の生活や歴史への理解を深め、地域の川の魅力を自治体住民へ普及啓発することを目的に自治体の発意で開始され、平成4年度から年に1回、毎年持ち回りで開催されてきた。平成18年度からは一級河川の流域自治体も参加するようになった。毎回、開催自治体独自の工夫を凝らしたテーマ設定のもとで、現地視察会、首長による意見交換、流域の小・中学生等による環境学習やボランティア活動の成果や取組み発表、行政職員や有識者の基調講演など、充実したプログラム内容となっている。



写真ー2 西日本豪雨災害時のボランティア活動に関する事例発表（三次中学校）

表ー1 全国川サミットの開催状況

回数	年度	開催自治体	河川	参加市区町村数	テーマ	整備局名
第1回	H4	富山県庄川町	庄川	15自治体	川は未来に夢はこぶ	北陸
第2回	H5	北海道鶴川町	鶴川	16自治体	きらめきリバータウン ～川と人の未来を求めて～	北海道
第3回	H6	静岡県大井川町	大井川	21自治体	夢と希望あふれる川づくり ～川は命、未来の子供たちへ引き継ごう～	中部
第4回	H7	兵庫県加古川市	加古川	22自治体	川は友だち ～ひと・まち・川 ちよつと素敵な物語～	近畿
第5回	H8	徳島県那賀川町	那賀川	20自治体	未来へ語ろう！ 私たち川家族	四国
第6回	H9	秋田県雄物川町	雄物川	21自治体	川がつなぐ「ひと・まち・こころ」	東北
第7回	H10	宮崎県北川町	北川	21自治体	思い出いっぱい 不思議がいっぱい ～川を彩るホテルの光が子供たちへの贈り物～	九州
第8回	H11	愛媛県肱川町	肱川	17自治体	21世紀へのメッセージ ～それは川から始まる～	四国
第9回	H12	三重県宮川村	宮川	17自治体	川に愛される人になりたい ～ちよつとすてきな川家族～	中部
第10回	H13	兵庫県揖保川町	揖保川	17自治体	歴史に学び明日を見つめる川づくり ～ともに創ろう 川の未来 水の未来～	近畿
第11回	H14	東京都江戸川区	江戸川	14自治体	暮らしにとけ込む、にぎわいの川 ～都市の中の川を考える～	関東
第12回	H15	岡山県加茂川町	加茂川	11自治体	森と川が伝える ふるさとのメッセージ ～水は生命の源～	中国
第13回	H16	奈良県十津川村	十津川	9自治体	みんなで考えよう！ 河川環境	近畿
第14回	H17	兵庫県猪名川町	猪名川	10自治体	清流とともに暮らす ～ええやん猪名川50年～	近畿
第15回	H18	岐阜県揖斐川町	揖斐川	9自治体	川面に暮らし 川とともに生きる	中部
第16回	H19	東京都江戸川区	荒川	17自治体	川の恵みとその脅威	関東
第17回	H20	群馬県みなかみ町	利根川	10自治体	川を活かしたまちづくり・川と交流	関東
第18回	H21	秋田県横手市	横手川	14自治体	川がはぐくむ「ひと・まち・こころ」 ～山と川のあるまちから～	東北
第19回	H22	兵庫県加古川市	加古川	15自治体	川はもたぢ ～未来につなぐメッセージ～	近畿
第20回	H23	新潟県長岡市	信濃川	21自治体	絆 ～川は流れ、地域をつなぐ～	北陸
第21回	H24	茨城県取手市	利根川	25自治体	川とつながる私たち ～水・命・文化・そして夢と未来～	関東
第22回	H25	長野県川上村	千曲川	23自治体	流域文化に学ぶ	北陸
第23回	H26	千葉県香取市	利根川	17自治体	歴史から学ぶ川と私たちの暮らし	関東
第24回	H27	新潟県新潟市	信濃川・阿賀野川	24自治体	川が創った大地 ～水と土が紡ぐ歴史～	北陸
第25回	H28	福島県喜多方市	阿賀川	27自治体	上流は下流を思い、下流は上流を敬う ～私たちの生活を支える大切な川～	北陸
第26回	H29	高知県四万十市	四万十川	23自治体	川とともに生きるまち	四国
第27回	H30	広島県三次市	江の川	18自治体	地域の誇れる川を未来へ	中国
第28回	R1	宮崎県宮崎市	大淀川			九州
第29回	R2	岩手県一関市	北上川			東北



写真ー1 現地視察会（三川合流部：江の川、馬洗川、西城川）

4. 検討の内容・結果

4-1 活動の継続に資する仕組み

(1) 運営体制

川サミットの主催は、「全国川サミット連絡協議会」（以下「協議会」という）とその年の開催自治体である。平成の大合併により一級河川名を持つ自治体の減少を受け、平成18年度からは、一級河川流域の市区町村や目的に賛同する市区町村へも会員資格を拡げる等、柔軟な運営方法をとって対応してきたことがわかった。

協議会に固定会員はおらず、参加自治体はその都度会員となる。こうしたゆるやかな組織運営により「協議会」の活動が維持継続している。最も参加回数が多い江戸川区は、平成12年（第9回）から約20年にわたり参加を続けている。また、開催自治体では実行委員会や作業部会が結成され、活発な意見交換を重ねて企画・調整・運営が図られてきた。

平成29年度から常設事務局が設置され、運営ノウハウの蓄積や次期開催地へのそれらの伝達等の面で開催自治体をサポートしており、（公財）リバーフロント研究所がその任を担っている。

(2) 資金調達

開催自治体は、公的・民間団体の活動助成金、参加自治体からの負担金等をうまく組合せて自主的に資金調達を行う等、開催自治体の経費負担を抑える事業展開の工夫を図っている。

(3) 次々回開催地の選定

開催自治体が2年後の開催地を指名することが慣例となっている。2年間の対象河川流域での活動期間を設けることで、テーマ設定や各種調整、予算確保、住民意識の醸成に比較的余裕をもって対応できることがわかった。三次市の指名を受け、令和2年度の開催地には岩手県一関市が選定された。

4-2 流域活性化を促進する仕組み

(1) 流域活性化に関する意見交換や取組紹介

川サミットは開催自治体の流域内の自治体も参加する。毎回、首長が意見交換を行う「首長サミット」の時間が設けられ、平成30年度は「観光資源としての川」をテーマに、取組紹介や意見交換が実施された。そこでは、各首長から水辺が織りなす自然景観と町並みを活かした賑わいづくりの取組みや、河川敷での約1万基のミニかまくら設置を見どころとする雪まつりの事例等、水辺とまちを結びつけながら四季を通じて観光に活用したり、地域の魅力発信につなげるヒントが随所に盛り込まれた発表が行われた。

首長を対象としたアンケートによれば「川を利用した観光や魅力について探求しており、川サミット

は良い取組みだと感じた」「川をテーマにして、全国各地の自治体、国交省などの関係者と交流できたことは良かった」「江の川流域の自治体の意見交換、交流会等を継続的に開催してはどうか」等、川サミットは意義ある取組として受け入れられ、次の活動の展開を考えるきっかけとなっていることが示唆された。

また、川サミット会場には参加自治体すべての紹介パネルや観光パンフレット等が展示・配布されるコーナーや特産品の販売ブースが設けられており、会場を訪れた一般の人々へも流域や全国の自治体の取組みを知ってもらう機会を提供している。

(2) 川サミットを契機とした自治体間の連携強化

自治体の交流は、川サミットの開催時に留まらない。川サミットへの参加をきっかけに、参加自治体間で姉妹都市提携が締結されたり（砺波市とむかわ町）、逆に友好都市協定及び災害時相互援助協定を締結している自治体間（香取市と喜多方市）で開催を引継ぐ等、川サミットが災害時も含めた自治体間の連携強化の一助となっていることが確認された。

5. おわりに

川サミットの安定的な開催とその継続は、開催を持ち回りとして資金や人的負担の分散化をはかること、既存のつながりを活かして次々回開催地の選定を行うこと、外部の資金を複数組み合わせることで開催費用とすること等に依り、柔軟に取組むことで継続していることが明らかとなった。

開催を契機として、各地域でより一層川を活かしたまちづくりや、教育の場としての活用、住民意識の向上、流域自治体間での定期的な意見交換等を実施し、さらなる交流が進むことが期待される。



写真-3 首長サミット



写真-4 三次市から宮崎市へ引継ぎ